

令和4年度 音楽科実践・研究計画

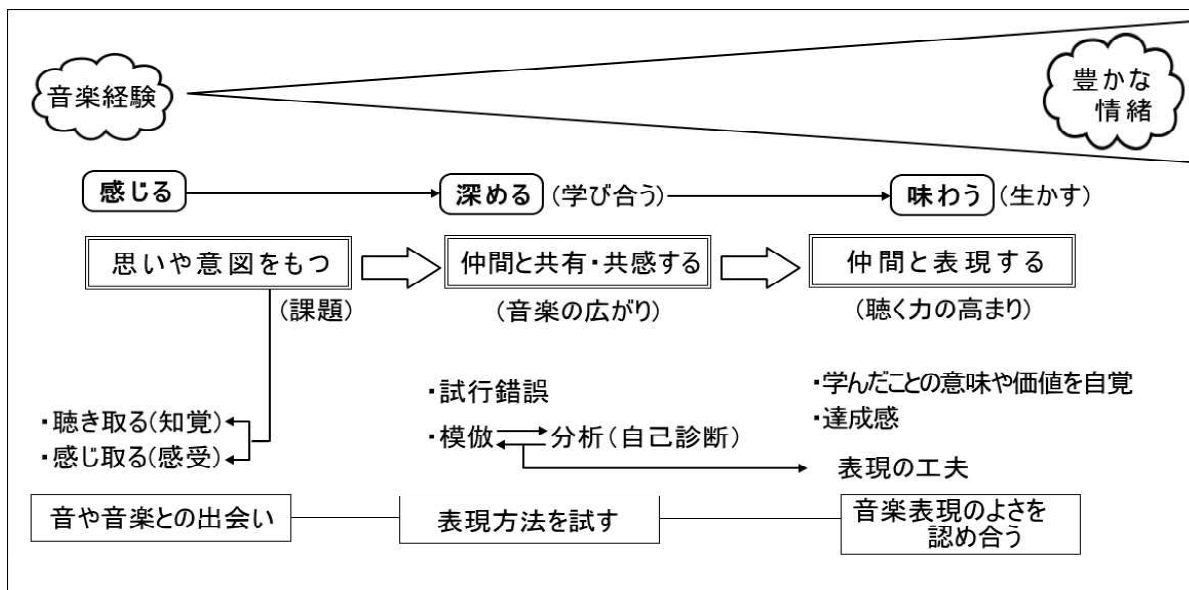
部 員	○大山光子, 中田貴広
-----	-------------

研究テーマ
「音楽のもと」を意識し、音楽と豊かに関わる子どもを育む学び

1 研究テーマについて

音楽科では、子どもたちが生涯にわたって生活や社会の中の音や音楽と豊かな関わりを築き、音楽を通じて生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指している。「音楽のもと」とは、音楽を形づくっている要素のことであり、音色、リズムなどの音楽を特徴付けている要素や、反復、呼びかけとこたえなどの音楽の仕組みのことを表している。音楽活動を行う上では、自分の思いと「音楽のもと」を結び付けることが重要である。音楽と豊かに関わるということは、音楽に対する感性と音楽的な「見方・考え方」を働かせながら感じ取ったことの原因を「音楽のもと」の働きに求めたり、その働きがどのようなよさや面白さを生み出しているのかについて考えたりすることである。楽譜通りに間違わずに演奏できるだけではなく、表現をつくり上げていく過程で、音楽のよさや面白さを実感できる子どもの姿を期待し、「『音楽のもと』を意識し、音楽と豊かに関わる子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていきたい。

- 音楽科で目指す自律した子どもの姿
- ・「音楽のもと」（音楽を形づくっている要素）に目を向けながら、自らの音楽表現をよりよいものにしようとする姿
 - ・感受と知覚の両方を働かせて、思いをもって音楽に働きかける姿
 - ・音楽活動を通して仲間と共有・共感するなど、人とのつながりを大切にする姿



図：音楽科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 <○は具体的な取組の例>

- よりよい音楽表現につながる「ものさし」を子どもと共有するための手立て
- 「音楽のもと」に気付き、思いに合った音楽表現をつくり出そうとする段階で、その音楽表現のよさを確かめ合う場を設定する。
 - 豊かな情緒を育むことができるように、音楽的な「見方・考え方」を働かせながら聴き合い、根拠をもって互いの音楽表現のよさを認め合う言語活動の場を設定する。
 - 自他の演奏を録音・録画し、客観的に聴く活動を設ける。